説明されない美はわたしをいらだたせる

横山 竜一郎 講師

■ 自己紹介

英詩（英語で書かれた詩）を研究しています。特に、ジョン・ダン（1572-1631）の作品を中心に、17 世紀イギリスの形而上派詩に関心をもってきました。また、出身地である島根県の松江市にも縁があることから、『怪談』で有名なラフカディオ・ハーン（1850-1904）についても、主に同時代の詩との関連から調査を進めています。

芸術としての詩は感性にかかわるものですから、それを読むことによって、私たちには何らかの美的反応が生じます。美しいと感じたり、面白くて笑ったり、憂鬱に沈んだり、深く感動して涙を流したりすることすらあります。しかし、詩の批評家の仕事はその後にやってきます。彼らは、なぜ私はこのような美的反応をしたのだろう、と考えるのです。それは感性の領域とは別の、理性や知性の領域に属するものです。20 世紀を代表する批評家のウィリアム・エンプソン（1906-1984）は、「説明されない美はわたしをいらだたせる」（“unexplained beauty arouses an irritation in me”）と言って、詩の美しさを思考によって徹底的に掘り下げることを試みました。芸術作品を言葉で説明しようなどというのは、無粋で、愚かなことだと思えるかもしれません。それでも、説明しようとすることでのみ、自分の美的反応が他人に共有可能なものとなり、芸術について語り合うという民主的かつ喜びに満ちた営みが可能になるのも確かです。皆さんと一緒に詩を読み、詩について語ることができれば、私にとってそれ以上の喜びはありません。